

令和五年五月 冠沓句

三十四句

三島 矢野 義男

五月晴れいつもこの様に居たいもの

五月晴れかくやあらんか身も開く

新緑の並木通りは天国か

田舎道忘れがたきよ今よりは

田舎道少なくなりし時代かな

御教をよくよく学び種子をまく

焦らずにみっちり鍛え種子をまく

東大阪 枝廣忠夫

五月晴れコノハナザクラの精に酔ふ

新緑の聖地に漂ふ静けさよ

田舎道幼き頃の草いきれ

三島 神門明子

五月晴れ新緑の枝に梅実のる

田舎道神と人との造りし道

新緑の松山恵みの宝山

ものがたり
靈界物語智慧証覚の種をまく

三島 谷内 いづみ

五月晴れ弥仙山参拝の夢かなう

田舎道思い出すのは母の里

子や孫に平和な世界の種をまく

貝塚 伊藤 香

五月晴れ元気におよげこいのぼり

新緑の目にも染み入る神の苑

若人に未来をたくす種をまく

田舎道野草を見つけ足止める

泉州 楠田 都庸次

五月晴れ朝空あおげば二日月

柿の花咲きて嬉しい種まきて

種をまく八年過ぎて柿実る

三島 足立 しげ子

五月晴れ野山もみどりさんぽ道

新緑の木には花咲くさくらんぼ

田舎道田植もおわりいねなびく

三島 足立 正文

五月晴れ梅もぎご奉仕行きたいな

五月晴れ今年も早々猛暑日か

新緑の松山ご奉仕はつらつと

新緑の野山は神の芸術祭

田舎道水田鏡に映え写真ばえ

田舎道カエルの合唱盛りあがり

ワクワクと発酵堆肥に種をまく

天位 子や孫に平和な世界の種をまく 三島 谷内 いづみ